

対象年度平成 28 年度

学校関係者評価結果

平成 29 年 12 月 12 日

船橋情報ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

目 次

(1) 船橋情報ビジネス専門学校学校関係者評価の実施について	3
(2) 学校関係者評価結果	3
(3) 学校関係者評価結果詳細	4
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	4
基準 2 学校運営	4
基準 3 教育活動	4
基準 4 学修成果	5
基準 5 学生支援	5
基準 6 教育環境	5
基準 7 学生の募集と受入れ	5
基準 8 財 務	5
基準 9 法令等の遵守	6

(1) 船橋情報ビジネス専門学校学校関係者評価の実施について

船橋情報ビジネス専門学校の学校関係者評価委員会は平成 29 年 11 月 30 日に船橋情報ビジネス専門学校に於いて実施された。当委員会は会議の冒頭に本校の学校自己評価の説明を学校側より受けた。

この説明を踏まえて学校自己評価に対して評価項目毎に確認と評価と指摘を行った。学校評価委員は委員長以下委員全員が本校の役職員ではなく、校外の企業や団体の役職員であるため、本校の学校自己評価の説明のためと学校運営に関する委員からの疑問や確認事項に答えるために、校長、教務部長が委員会に同席した。

また会議室の運営、議事録の作成のため本校の事務局も同席している。

(2) 学校関係者評価結果

以下の学校関係者評価は本校学校自己評価の各項目と対応している。

今回の委員会に置いては学校自己評価に関しても、学校運営自体に関しても、特に不適とする指摘、緊急で改善を要する様な指摘はなかった。

(3) 学校関係者評価結果詳細

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

会社で社会で必要とされるのは、技術力と人間力のバランスが取れた人材で本校の理念は評価できるとの評価があった。

基準 2 学校運営

平成 29 年 4 月より稼働となった新システム導入の内容について、質問があった。学校側より、学生管理（出欠・成績管理）各種証明書発行、カリキュラム、時間割管理等の教務のシステムを、旧システムの陳腐化等による信頼性の悪化やコスト増を回避するための更改を行いパッケージシステムを導入したことが説明された。現時点で以降途中ながら大きな問題がないことも報告された。

基準 3 教育活動

プログラム言語の教育に関して、その対象とする言語について討議されたが、企業委員から現時点での企業ニーズに則って考えると、本学の選択している JAVA 言語が妥当であるとの意見が出た。一方、今後の教育対象となるプログラム言語の可能性としては、パイソン、Rubby 等が具体的に挙げられており、学校側参加者も今後も指摘に基づき、関係領域を注視し情報収集にあたることとする。

また企業ニーズの高いプレゼンテーションにかんして、卒業研究の成果発表が大きな講演会のできる 1000 人収容規模のホールを借りて何百人もの聴衆の前でプレゼンテーションを行うことは意義があると認められた。

基準 4 学修成果

一般企業での IT 人材の要件について、プログラムに特化した能力までは実務上は左程に
にがないことが指摘された。一方、ユーザ企業向けの IT 人材の提供に主眼を置いているビ
ジネスライセンス科においても IT 系の技術者への就職も進路として指導していると学校側
から説明があった。幅広い人材の提供自体は望ましいことでもあり、IT 系の技術者として
も今後はより高齢まで就業することも予想され、例えば職人的な IT エンジニアなどの可能
性も見えてくることが指摘された。

基準 5 学生支援

特に学校関係者委員よりの確認・指摘となった事項はなかった。

基準 6 教育環境

委員からグローバルな人材育成のキーとして英語教育の必要性が指摘された。特に英語
圏に限らず中国を始めとするアジアにおいても必要であるとされた。学校側も認識しつつ、
学生の実情に合わせてアプローチが進められていることが確認された。

基準 7 学生の募集と受入れ

特に学校関係者委員よりの確認・指摘となった事項はなかった。

基準 8 財 務

特に学校関係者委員よりの確認・指摘となった事項はなかった。

基準 9 法令等の遵守

特に学校関係者委員よりの確認・指摘となった事項はなかった。

基準 10 社会貢献・地域貢献

特に学校関係者委員よりの確認・指摘となった事項はなかった。

以上